



ルーテル学院だより

NO.150
2022.6.1

http://www.luther.ac.jp/
発行 ルーテル学院大学・
日本ルーテル神学校
〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL:0422-31-4611
FAX:0422-33-6405

発行人 石居 基夫

2022年度 入学式メッセージ

「扉を叩く音」

学長 石居 基夫

主人が婚宴から帰って来て戸をたたき、すぐに開けようと待っている人のようにしていなさい。主人が帰って来たとき、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。はつきり言っておくが、主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる。(ルカ12章36・37節)



新生生の皆さん、
ご入学おめでとう
ございます。

今日は、皆さんは大学生となって、それぞれ人生の新しいあゆみを始められます。本学での学びと生活、活動が皆さんの将来への備えとなっていくわけです。

イエスが話された一つのたとえです。婚宴から帰ってくる主人のために起きている僕がある。僕はこの主人が必要とする食事を給仕するために起きて準備をしていなければなりません。いつ主人が帰ってきて、扉を叩く音が聞こえたら、すぐに扉を開けて主人を迎え入れる。この準備をしておかなければならないと教えています。そうして自分のなすべき一つの給仕に備えていた僕は、その主人の目にとまり、身に余るような祝福を受け取るという。

ど、ご自身はそこで力つき、命を落とされました。

藤崎さんのことは、ニュースになりフィリピンの人たちの心を動かししました。先の戦争以後、日本人に対するイメージは決して良いものではありませんでした。藤崎さんの行動はそれを書き換えるほどに受け止められました。

また、彼女の思いを受け取っていった人々から集まる献金は、今に至るまで藤崎るつ記記念基金としてフィリピン人学生のための奨学金となっています。

私達は、この僕のように自分が必要にはいつでも応えることができるように備えていくことが必要なのでしよう。そういう備えをして、誰かのために私たちが生きていく、その時に自分自身が生きることの意味や喜びを本当の意味で受け取っていくことになるということでしょう。誰が私たちの扉を叩くのか。私たちが必要とする誰かが扉を叩く、その時によく備えておきたいと思うし、また戸を叩く音を聞き逃さないようにしたいと思う。

今から40年前の1982年の春、この大学で社会福祉を学んだ藤崎るつ記さんが卒業されました。学生時代にボランティア活動で出かけたインド・バングラデッシュでアジアの貧困問題を知り、国際社会福祉を志すようになって、卒業された夏にはフィリピンの大学に留学されました。藤崎さんは何かの助けになりたいと思われたのでしよう。彼女の人生の扉を叩く音が聞こえたのかもしれない。そうしてフィリピンで学び始めた翌年の春でした。たまたま休暇で遊びに出かけたフィリピンの海岸で、友人二人が溺れかかったのです。彼女は助けようと海に入りました。この時も扉を叩く音が聞こえたのでしようか。彼女の懸命な救助活動もあって二人は助かりました。けれど、

大学で学ぶこと、それは、自分の将来のために備えることだから、それは自分のためだとも言える。でも、同時にそれは誰かのために自分が必要とされているということへの備えでもあるのです。新しい友人と出会うこと、教員から学ぶこと、一冊の本を開くこと、実習に出かけること、何かに夢中になって取り組むこと。それらは皆、誰かが扉を叩くときに「すぐに開けよう」と備えることと言って良いでしょう。また、その扉を叩く音を聞き取っていくことかもしれません。

しかし、もう一度聖書のたとえに戻りますけれど、皆さんがそうして備えている時にこそ、主人はやってきて、皆さん自身の本当の必要に応えるために食事を整え、給仕をしてくださるというのです。そこに祝福が与えられるのです。



入学式報告

人間福祉心理学科長 田副 真美

新生生の皆さま
ご入学おめでとう
ございます。

令和4年4月1日、ルーテル学院大学のチャペルにおいて、入学式を執り行いました。満開の桜と共に、

新生生を迎えることができました。

式典は、昨年と同様、新型コロナウイルス感染症予防のため、入学者と教職員に参加に限らせていただき、3部制(第一部:第二部:学部、第三部:大学院)で行いました。保護者とご家族の皆様は、ライブ配信により式典の様子をご覧いただけるようにしました。

石居学長より聖書のたとえから、これからの大学生活における備え、人との出会いや学びへの期待やその意味についてお話いただきました。学長のメッセージを聞いている新生生の皆さんは、やや緊張している様子がみられましたが、それ以上これからの期待や希望に満ちた真剣なまなざしが印象的でした。

新生生の皆さんが、この入学式から新たな一歩を踏み出し、充実した実りのある学生生活を送られることを祈念いたします。

学生会会長からのメッセージ

学生会執行部 会長 2年 阿部 大地

学生会執行部会長の阿部大地です。

新生生の皆さん、入学から数ヶ月が経ちましたが、楽しんでますか。現在、学生会執行部ではコロナウイルスの影響により減少してしまった学生のつながりを取り戻すために、今できる活動を行っています。感染対策を考慮したイベント開催を検討しているので、楽しみにしてください。

私は学生会会長になってから、「大学ってなぜ行くのだろう」と考えるようになりました。学生会執行部は学生の声を取り入れ、学生が楽しく大学生活を送れるようにするために活動している組織です。私なりに「大学に行く意味」を考えてみました。

大学院生からのメッセージ

臨床心理学専攻 修士課程2年 坂本 絵美

新生生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、一番大切な人

はいますか? 「それは自分だ」という人もそうでない人もいます。自分も他者も同等に大切にすることが大切だと思います。自分を大切にすることは、生きる上で大切な自信の源だと私は思います。そのような自信を持っていないと思う人にとっても、そのヒントがこの大学には散りばめられていますので、探してみてください。まずは先生に聞いてみるのもいいでしょう。それとも先輩方と、牧師先生と、隣の席に座っている人と話してみてもいいでしょう。図書室で司書さんにお勧めの本を聞いてもいいと思います。人は何かミスをした時、自分を責める傾向

大学はそれまでの学校生活と違って、中学高校にある校則がなく、比較的「自由」な環境です。その反面、今までは違った苦労があります。それは「自己決定」を託されている事です。このふたつは隣り合わせになっています。自由とは、自己決定をする事です。これを言い換えれば、まず「自分が何をしたいか」が先にあつて、それから決定し行動する事を言います。要するに自由というのは、「主体的に自己決定する事」だと思います。

私は、自由であるために必要な自己決定能力を身に付ける事が「大学に行く意味」だと考えます。そして学生会会長として全学生の自由を尊重します。ですので、皆さんには主体的に行動する事を諦めないで、勇気を持って自己決定してほしいと思います。あなたらしい大学生活を、あなた自身で創れますように。

があるそうです。でも人は誰でも欠点のある存在で、それが個性でもありません。

私は、入学した当初は自分が大切とは思っていませんでした。しかし、ここでこの大学生活で視野が広がり、今は自分が愛しいと思える日が増え、笑顔も増えたように思います。ある先生の受け売りですが、自分は無条件にただ存在自体でOKなんだと思えるようになりました。人生でうまくいかなかったことのエピソードも愛おしいと感じます。それもひっそり自分で自分です。いつでも今が大切です。あなたが入学されたことを歓迎し、あなたの一歩一歩を応援しています。



ルーテル学院大学の新しいカタチ

学長 石居 基夫

ルーテル学院大学は、「キリストの心を心とする」という建学の精神と「心と福祉と魂の高度な専門家を養成する」という教育目標を実現するために、2023年度より新しいカリキュラム構成で「総合人間学部・人間福祉心理学」の教育を実現していきます。その特徴は以下のようにまとめられます。

一、人間を包括的に理解し、また実践的なケアを実現する「総合人間学」
本学はキリスト教における人間理解を基礎として対人援助の専門を学ぶことを特徴としています。そこでは包括的、全体的人間理解を目指していきます。

もちろん、ただ人間を理解するということだけではなく、私たちが共に生きる社会を実現するための実践的ヒューマン・ケアに向けて、社会福祉学や臨床心理学という専門と密接な関係の中で構築されていくのが本学の「総合人間学」です。

二、シンプルながらリキウム構成
学生一人ひとりが多様な将来に向けて、対人援助の専門性を深め、実践力を

を養っていかれるよう「社会福祉学」系、「臨床心理学」系のカリキュラムを整えています。もちろん、国家資格（社会福祉士、「公認心理師」）取得にも対応しています。細分化された必修・選択必修に縛られることなく、自由で学際的な学びを実現できます。

三、学びの中心を支える「人間学」系のカリキュラム
対人援助の専門性を身につける時に、最も大切なことは「人間理解」です。自分を知り、他者を理解し、世界を探究し、人間・宗教・文化を深く学ぶ「人間学」系のカリキュラムを用意しています。子どもと家族を支援するための科目群や、死のちにむかひ合う「スピリチュアル・ケア」について学べる科目群を提供します。

四、学生の主体的な取り組みを支えるアドバイザー
こうした仕組みを具体的に活かすのは学生自身です。その学生一人ひとりの履修や具体的な学び方、課題への取り組み方を支えるために、1年次アドバイザー、修学アドバイザーを整えています。また、学生の履修状況や実習経験をともに、具体的な将来像を描けるように就職進路支援のプログラム等によって、一人ひとりの主体的な取り組みを実現していきます。

オープンキャンパス (事前申し込み制)

- 6月11日(土) 来校型
- 7月10日(日) 来校型
- 8月6日(土) オンライン配信型
- 8月21日(日) 来校型
- 9月25日(日) 来校型
- 12月3日(土) 来校型

新型コロナウイルス感染症の拡大状況により変更が生じる場合があります。お申し込みの際、ホームページでご確認ください。



お問い合わせ
ルーテル学院大学企画広報センター
電話 0422-32-2949
メール koho@luther.ac.jp



90人に、90の物語。

クヌーテン講演会報告

チャプレン 河田 優



4月27日(水)、教室での対面とZoom配信のハイブリッド形式で、クヌーテン講演会が開催されました。講演者は日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会牧師、認定NPO法人「抱樸」理事長である奥田知志先生です。奥田先生は学生時代に出かけた大阪の釜ヶ崎での日雇い労働者の支援活動をきっかけに、ホームレス支援を始められ、牧師になられた後も生活困窮者や社会から孤立状態にある人々の生活再建支援活動を続けておられます。

演題は「ひとりじゃない」という支援—社会的孤立と共生社会—です。奥田先生は、現代の私たちは「自分病」というものに罹患しているが、パ

卒業式が執り行われました

大学院研究科長 福島喜代子

2022年3月11日(金)、卒業式が執り行われました。最高気温18度の春らしい日差しの中、心なりの一日でした。東京都では新型コロナウイルス感染症まん延防止措置が発令される中、チャペルへの入場者数を制限して実施しました。保護者の方や、会場に入れない教職員のためにYouTubeのライブ配信も行われ、多くの関係者が視聴する中、卒業する学生は、学長からの祝辞等を受けました。

大学院生の学位授与式は11時から。総合人間学部人間福祉心理学専攻・博士前期課程2名、臨床心理学専攻・修士課程5名への学位授与がなされました。



1部は13時から。キリスト教人間学コース(9名)、臨床心理学コース(29名)の学生が卒業しました。第2部は15時から。福祉相談援助コース(13名)、地域福祉開発コース(8名)、および子ども支援コース(18名)の学生が卒業しました。ムラサキスポーツ奨励賞の授与及び日本ソーシャルワーク教育学校連盟表彰も行われました。



ら専門職に話をしっかりと「聞いてもらえ」と苦しみながらも和らぎ軽くなり、経験をしていく。そのことで、「人に助けて」を言える関係へと変わっていくと考えます。

「助けて」が言える関係作りのために①苦しみを「聴ける」ソーシャルワーカーを育てる。②そのソーシャルワーカーの苦しみを「聴ける」支持的スーパーバイザーを育てる。③市民がソーシャルワーカー

時間がかかろうが変えていきます。というところが、カウンセラーに求められる基本的態度の一つである「クライエントが自分自身の体験をすること」を認めるという考えにつながると思いました。つまり、他者(カウンセラー)が伴走することで、本人(クライエント)が自分を認知できる、ということではないかという考察を進めることができました。

行事予定

- 7月10日(日) オープンキャンパス
- 臨床心理学専攻オープンセミナー
- 7月22日(金) 通常授業終了
- 7月25日(月) 30日(土) 前期試験期間
- 8月2日(火) 6日(土) 集中講義期間
- 8月6日(日)
- オンラインオープンキャンパス
- 8月21日(日) オープンキャンパス
- 9月19日(月) 後期授業開始日
- オープンキャンパス、オープンセミナーの詳細については、事前にルーテル学院大学のホームページでご確認ください。

先輩に聞いてみました

質問「大学に入学前や学生生活でやっておけばよかったと思うことは？」

- ・A先輩
大学ではレポートを書くときや、何か調べるときに本を参考にすることが多いので、高校生のころからもっとたくさん本を読んどけばよかったと思います。
- ・C先輩
パソコンのタイピングにもっと慣れておけばよかったなと思います。そうすれば、レポートのはかどり具合も違ったのかなと思っています。
- ・Y先輩
わたしはおもに心理について学んでいるのですが、心理学は海外の研究論文も多く、英語の知識が必要になってくることを実感しています。
ちなみに大学の授業でも、英文を読む、書く、英語を話す、聞くための知識を学ぶこともできます。

